

手練

S H U R E N

第 18 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会



表紙

会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

目次

■文化財屋根葺士養成研修 第24期生 後期研修 始まる	2
■主任文化財屋根葺士 検定会 実施される	4
■主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催	4
■令和4年度 檜皮採取者(原皮師) 中級研修	5
■令和4年度 賤母国有林にて檜皮採取見学会	6
■令和4年度 檜皮採取技術査定会	7
■文化財屋根葺士養成研修 第24期生 後期研修 終了	8
■令和4年度 屋根板製作者養成研修を実施	10
■令和4年度 茅葺中級研修	11
■令和4年度 文化財研修会	13
■準会員 名簿	15
■あとがき	

文化財屋根葺土養成研修 第24期生 後期研修 始まる

期 間 ● 令和4年5月9日(月)～9月17日(土)
場 所 ● 文化財建造物保存技術研修センター 他

令和4年度 文化財屋根葺土養成研修 第24期生の後期研修が橋本浩太郎(株式会社 河村社寺工殿社)、品川琉心(田中社寺 株式会社)、川瀬皆人(田中社寺 株式会社)の3名で始まりました。

後期の研修内容としましては、材料整形・葺実習(京都研修センター)、現場実習(各会社)、専門工法、積算、仕様、工程管理、建築史演習、実測、製図、卒業実習となります。短い日数の中でこれだけのことを勉強し、理解して身に付けていくのは大変だと思います。この研修で屋根葺土としての必要な知識と技術を習得し、研修終了後にはこの研修を受けて良かったと言えるような研修にしてください。

最後になりますが、ご指導をいただく関係者の皆様には、この屋根葺土養成研修が有意義なものになるように、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



材料整形



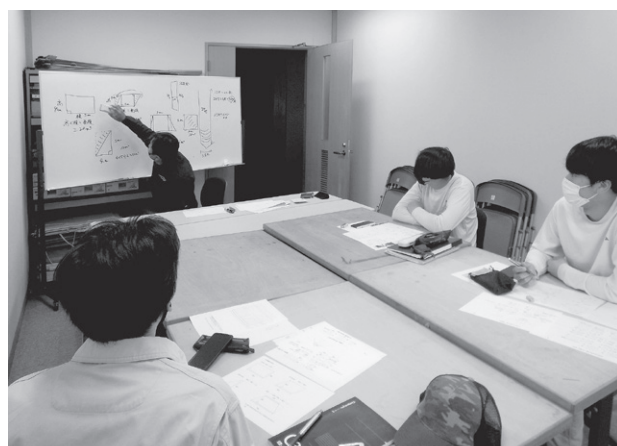
葺実習



現場実習



竹釘製作



座学

建築史演習

期 間 ● 7月20日(水)・21日(木)

講 師 ● OFFICE 萬瑠夢 代表/元滋賀県教育委員会 文化財保護課 工事監督 村田 信夫 氏

研修場所 ● 石山寺、園城寺、日吉大社、賀茂別雷神社、大報恩寺、北野天満宮

■北野天満宮



北野天満宮 (京都府)



国宝 北野天満宮 本殿、石の間、拝殿及び楽の間 (京都府)

■日吉大社



日吉大社 山王鳥居近く (滋賀県)

■大報恩寺



国宝 大報恩寺 本堂 (京都府)

■石山寺



石山寺 国宝 三間多宝塔 (滋賀県)



石山寺 重要文化財 東大門 (滋賀県)

主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

茅葺【第21回】●令和4年10月24日(月)～10月29日(土) / 1名(茅葺師)

本年度も受験者1名となり、今年は茅葺での受験となりました。施工は流れるように手順よく、屋根を葺いていったように見え、危なげなく模型は完成していたように思います。各講師来賓の皆様からの採点でも大きく減点される項目はなく、概ね好評でした。学科試験についても計算問題などはすべて正解を取るなど、責任者とし



検定会会場風景

[会場●山南ふるさと文化財の森センター]

ては文句のつけようのない試験結果となりました。そのため満場一致で合格とさせていただきました。

去年度の再受験生(檜皮葺)については本年度、学科試験を再度行いました。結果、合格点には達しましたが、現場責任者としては不安が残ることから、補講を行うことを条件に合格としました。



講師の先生たちの講義を聞く受講生

主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

日時 ● 令和4年11月25日(金) 10:00～12:00
会場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

今年度も、京都女子大学より鶴岡典慶教授を講師にお迎えし、更新講習会を行いました。多くの更新者が参加し、屋根葺士26名の更新を行いました。

例年続けてきている更新講習会ですが、本年度についても大規模感染症の影響が収まらない状況でした。また、高齢により更新されない方や、お亡くなりになられた方も出てきたことを非常に残念に思います。このような社会状況の中でも京都センターに足を運んでいただき、更新講習に参加してくれた皆様、また各事業者様には感謝

を申し上げます。

講習参加者が鶴岡様の講義に耳を傾け、特に効率といった点について関心を持って聴いていたように思います。一人前の職人が1日に施工できる面積が減っているのではないのか、という投げ掛けがありましたが、これは社会的要請、休みであるとか、休日出勤や残業であるとか、様々な福利厚生要素が絡んでいると思われます。各事業者においても、これらの社会的要請を無視するわけにはいかず、職人と職人の家族に対する要請、義務にも応えつつ文化財施工を行わなければなりません。今現在でも出張が多く大変な仕事ではあると感じているので、このあたりのバランスをどうするのか、考えていかなければならないと思います。

保存会としても上記を含め、主任技術者のさらなる意識向上と地位向上、技術向上のため、講習会を通じて新しい知見を身に付けられるように努力していきたいと思っております。

令和4年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修

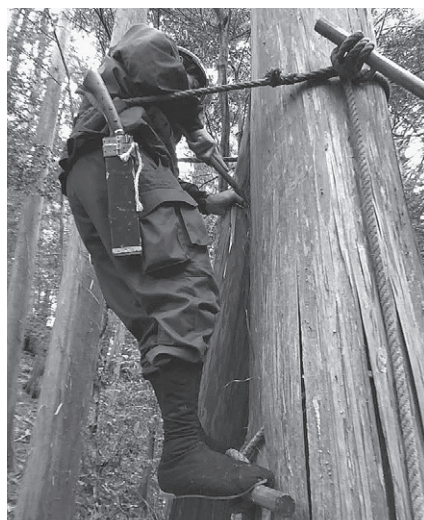
令和4年度の檜皮採取者養成研修は、11名の研修生にて、仏通寺国有林から始まり、賤母国有林、栃本市有林、羽賀寺、西通山国有林、岡山個人林、城山国有林にて、全14クルールの研修を行っています。天候不順の山での

研修になりますが、皆、技術の研鑽に励んでいました。

本年度も研修林を提供していただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



形状に注意しながらヘラ入れをする



ぶり縄を使った足掛りで皮を剥きあげる



さらに一段登り、剥きあげ作業を繰り返す



檜皮を結束するためにワクに積み上げる



結束した檜皮を切断する

令和3年度 中部森林技術交流発表会 国有林の部「優秀賞」を受賞

昨年度開催されました、中部森林管理局主催の「令和3年度中部森林技術交流発表会」において、国有林の部・優秀賞を受賞いたしました。長年続けてきた取り組みが、最高の評価をいただき、大変光栄に思うとともに、心より感謝申し上げます。最後になりましたが、木曾森林管理署 南木曾支署の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



令和4年度 賤母国有林にて檜皮採取見学会

参加校 ● 南木曾町立南木曾小学校、
長野林業大学校
期 日 ● 令和4年9月21日(水)、10月3日(月)
会 場 ● 賤母国有林(長野県)

本年度も森林環境教育の一環として、9月に南木曾小学校、10月に林業大学校が檜皮採取見学会を行いました。檜皮採取の技法を見て、触れる場を提供し、日本の伝統技術・文化財に触れ合う取り組みとして、毎年のように原皮師を講師に見学会を行っております。

南木曾小学校3年生からは、「木を登ってむくのがすごいかっこよかったです」「皮のむき方を初めて知ってやってみたいと思いました」等、たくさんのお声をいただきました。

長野県林業大学校1年生は、研修生が作業する現場ま

で山を登り、皆興味津々に作業を見学していました。

今後も、檜皮採取見学会を通じて、日本の技を知って感じてもらえるよう、続けて参ります。



檜皮採取の様子を凝視する長野林業大学生



檜皮採取を見学する南木曾小の児童たち



檜皮結束の作業を写真や動画におさめる長野林業大学生

令和4年度 国有林野事業 業務研究発表会

期 日 ● 令和4年11月24日(木)
会 場 ● 南木曾森林管理署

林野庁主催の「令和4年度国有林野事業業務研究発表会」が開催され、「森林ふれあい部門」にて、木曾森林管理署 南木曾支署 森林整備課 齋藤由晃様とともにオンラインにて合同発表をさせていただきました。この発表会は、現場業務を通じて得られた取り組みの成果を広く普及するとともに、組織全体

で共有し、今後の取り組みにつなげていくことを目的に開催されています。

審査の結果、入賞とはなりませんでしたが、今後も檜皮採取者養成研修事業、歩道・森林の整備、採取見学会などの普及啓発を行っていくとともに、日本固有の技術、檜皮茸に必要な不可欠な檜皮の資材確保、そして再生可能な資源を生産するモデルフィールドとしての有効な国有林活動に取り組んでまいります。

令和4年度 檜皮採取技術査定会

期 日 ● 令和4年10月13日(木)、14日(金)
会 場 ● 仏通寺国有林(広島県)

檜皮採取技術査定会は、檜皮採取研修生の日頃の研修成果を査定するとともに、技術の継承と向上を目的とし毎年行っております。

当日は、文化庁文化財資源活用課(修理指導部門)文化財調査官 結城 啓司様をはじめ保存会会長及び理事、中級研修生が参加し、総勢15名で行いました。査定を受ける研修生は3名、査定員は指導員2名、指導補助員1名の3名にて実施しました。天候にも恵まれ、研修生は日頃の成果を存分に発揮しながら採取作業にあたりました。文化庁の結城様も研修生の作業を熱心に見入っておられました。

今後は、査定員の採点をもとに日頃の研修の年間実績考課値を加味し、担当役員が技術ランクを決定します。この度の査定会にご協力いただきました広島森林管理

署、並びに仏通寺の皆様にご心より感謝申し上げます。



作業を間近で見つめる結城調査官



緊張の瞬間、最初のヘラ入れ



結束した皮を切断する研修生



剥きあげ作業を進める研修生



出来上がったばかりの丸皮を前に集合した参加者の皆さん

文化財屋根葺士養成研修 第24期生 後期研修 終了

去る令和4年9月22日をもって後期研修を終了し、第24期文化財屋根葺士養成研修のすべての課程を終了いたしました。後期研修では卒業現場実習に向けた材料整形をはじめ、模型や実際の保存修理現場での葺き実習、座学では実測及び製図の実習、建築史演習では滋賀県と京都市内の各所を講師の方の指導の下、2日間にわたり実施しました。

9月5日～16日、研修の集大成となる卒業現場実習は三井寺(園城寺)様のご協力を得て実施し、平葺のみならず役所も担当させていただき、2年間にわたる研修の成果を十分に発揮することができました。

今期の研修ですが、当初は頼りなさも感じられた研修生の皆さんも、研修が進むにつれてたくましくなってきました。先日、公開セミナーで技術の実演をしていただきましたが、すっかり職人の顔になって堂々と実演さ

れている姿を目の当たりにし、研修で学んだことが少しずつ身になってきているのかなと感じます。

研修が終了したとはいえ、これで終わりではありません。ここはあくまで通過点であり、屋根葺士として生きていくためのスタートラインに立ったにすぎません。驕ることなく常に謙虚に技術と向き合っていってほしいと心から願います。

前期研修も含め、第24期の養成研修事業にお力添えをいただいた講師の方々、指導員の皆さん、そして行政をはじめとした関係機関の皆様方に、紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。今後ご指導のほど、よろしくお願いたします。

座学



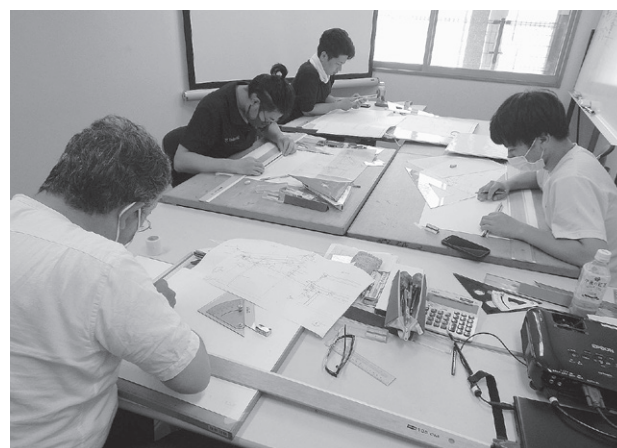
北野天満宮「建築史演習」



石山寺「建築史演習」



実測の様子



製図の様子

材料整形



竹釘製作実習の様子



檜皮材料整形実習の様子

卒業現場実習



上目皮張り



箕甲葺

留め上目皮張り



箕甲葺出し



実習 施工後

令和4年度 屋根板製作者養成研修を実施

期 間 ● 令和4年9月26日(月)～10月6日(木)
講 師 ● 嘉本 洋士
(株)児島工務店 島根工場 工場長)

屋根板製作選定保存技術の保存団体として平成30年9月25日に認定を受けたことを契機に、平成31年度より屋根板製作者養成研修事業を開始しました。今期の期間は10日間。島根県にて、研修生3名を対象に実施しました。

杉材を用いて主に平板1.0尺×1.0分の製作ときわら椽材で軒せんがの銃掛けと大割を実習しました。原木の見分け方、材の取り方、木取り方法の基本など一つ一つの工程を実際

に見せながら指導し、研修生も熱心に聞き入っておりました。最初のうちは慣れない作業に戸惑いも見られましたが、工程を何回も繰り返すうちに理解度も高まってきたようで、最終日が近くなる頃には形になっていました。

文化財建造物を適切に保存していくためには良質な資材の確保は欠かせません。研修生には、こういった研修を通じ、資材確保から屋根葺工事までを一連の流れとして理解し、我々の技術が森林資源に支えられていることを胸に刻んでいただきたいと思います。

来年度以降も研修は続きます。保存団体として求められる役割は多岐に渡りますが、一步一步着実に進めていくためにも多くの皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



みかん割り分割前の木取り



銃掛けの様子



板へぎ作業

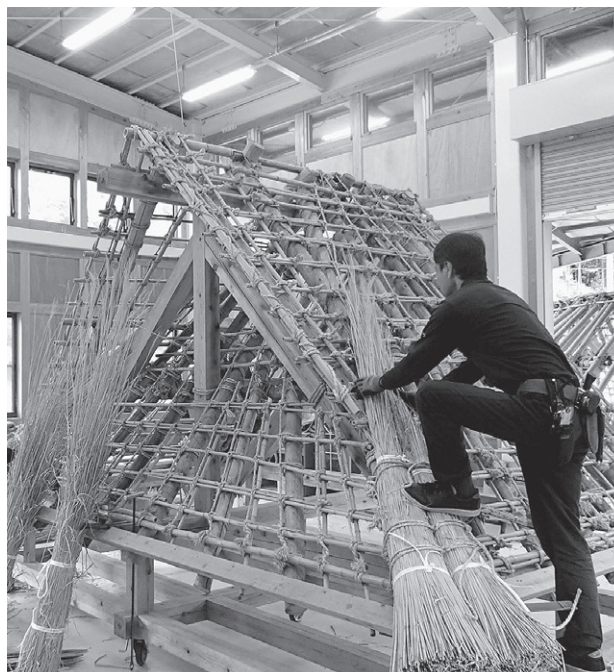
令和4年度 茅葺中級研修

今年度の茅葺中級研修では、7月11日(月)～16日(金)まで丹波市立山南ふるさと文化財の森センターで隅茅の作成、及び軒先の取り付け、また、9月27日(火)～10月9日(日)まで兵庫県三田市大川瀬 住吉神社で差し葺き修理、1月16日より静岡県伊東市の大室山で茅刈りを行いました。

研修では、当会正会員 長崎貴宣・大西謙之・熊谷秋雄がそれぞれ指導にあたりました。研修生は、栃木、新潟、山梨からの参加となりました。甲信越地方、北陸地方で活動する研修生には、関西地方の屋根は、新鮮で独特な難しさがあったように思います。

大室山の茅刈りは、地域の方々との連携を深められ、今後もさらに継続していける活動だと思います。採取した茅も良質なものでした。

本年度は、隅茅作成取付研修1回、差し葺き研修1回、茅刈り研修1回をそれぞれに行うことができましたこと、各関係者の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。



隅茅取り付け

丹波市立 山南ふるさと文化財の森センター

指導員●長崎 貴宣(明石屋根工事有)

研修生●3名/加々美 栄(伝匠舎(株)石川工務所)

新津 侑樹(伝匠舎(株)石川工務所)

中島 信(株)茅葺屋根保存協会



研修内容の説明



隅茅取り付け



隅茅取り付け指導

住吉神社 舞殿

指導員●長崎 貴宣(明石屋根工事(有))

研修生●1名/島田 伊織(榎越乃かやぶき)



隅茅の取り付け



指導員による軒下の補修指導



平葺の叩き揃え

大室山 茅刈り

指導員●大西 謙之、熊谷 秋雄

研修生●4名/山口 成貴(田中社寺(株))

富樫 忠義(有熊谷産業)

猿橋 成博(榎茅葺屋根保存協会)

八ツ橋崇市郎(榎越乃かやぶき)



茅刈り



研修開始



結束・運搬

令和4年度 文化財研修会

日 時 ● 令和4年10月21日(金) 13:00~15:30
会 場 ● 法華経寺 祖師堂、客殿
(千葉県市川市中山2-10-1)

この度は、千葉県市川市にある国指定重要文化財 法華経寺 祖師堂の保存修理工事現場を見学させていただき、研修会を行いました。コロナによる影響も幾分弱まって来たとはいえ、遠路はるばる全国から正・準会員約50名の参加がありました。

正中山 法華経寺は、鎌倉時代の高僧・日蓮聖人が最初に開いた寺であり、子育守護である祈願成就の御尊体は「中山の鬼子母神さま」として広く全国信徒の信仰を集めています。祖師堂の他にも国指定重要文化財は五重塔・四足門・法華堂、国宝の「観心本尊抄」・「立正安国論」、重要文化財61巻ほか、百数十点の日蓮大聖人御真筆を格護している聖教殿など、数多くの文化財を有しています。

まず始めに、法華経寺貫主 新井日湛様より自身の出自や、経験などからのありがたいお言葉とともにご挨拶をいただきました。次に、法華経寺主事 佐藤憲秀様より法華経寺の来歴とともに、色々な人間模様など様々なお話をお聞きし、大変勉強になりました。そして、文化財建造物保存技術協会 田村 匠様より祖師堂の保存修理工事の概要を説明していただきました。今回の工事は、主に柿葺屋根の葺き替え工事となっております、中でもこの

祖師堂は日本でも珍しい比翼入母屋造りの屋根となっています。その建物の構造や修理方針などについての説明をしていただきました。その後、実際に修理工事現場にて工事状況を見ながら、各々意見交換を行いました。

約半日の短い時間でしたが、実際に足を運ぶことによって得られる知識や見解はやはり貴重なものだと思います。また、ここ法華経寺は日常的に地元の住民が境内を行き来する、正に生活に溶け込んだお寺です。そして、その日常を支えていく一端に我々も加担している仕事だということを改めて意識させられます。

今年もこのような研修会を行うことができ、現場を提供いただいた法華経寺様、文化財建造物保存技術協会様、元請けや各業者の皆様、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



法華経寺 客殿での研修会風景

研 修 会 「法華経寺 客殿」

- 開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 大野 浩二
- 挨拶 ● 法華経寺 貫主 新井 日湛 様
- 講 話 ● 法華経寺 主事 佐藤 憲秀 様
題目「法華経寺の歴史について」
- 概要説明 ● 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 田村 匠 様
「保存修理工事概要」
- 閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 執行理事 友井 辰哉

見 学 会 「重要文化財 法華経寺 祖師堂 保存修理工事現場」

研修会



法華経寺 貫主 新井 日湛様の挨拶



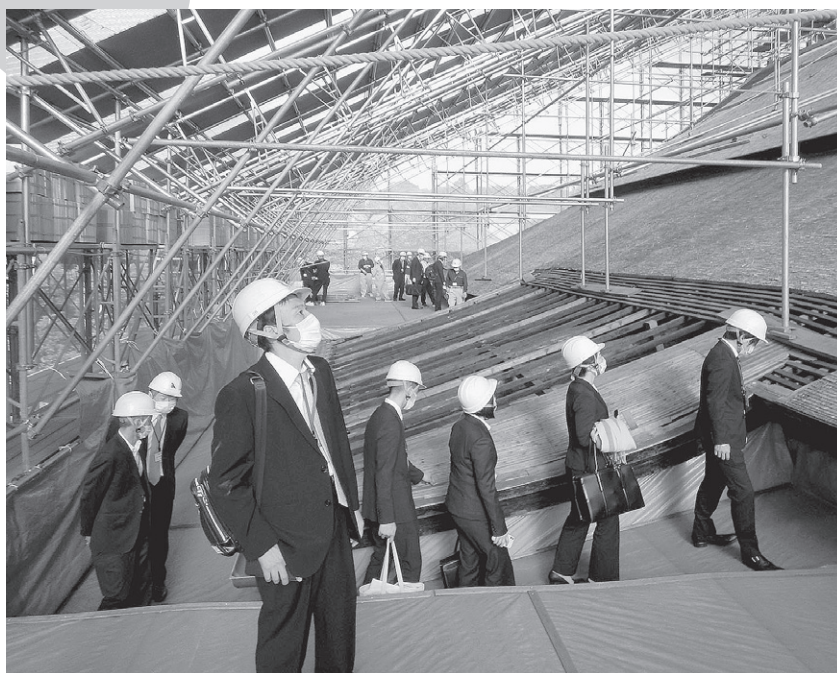
法華経寺 主事 佐藤 憲秀様の講話



(公財)文化財建造物保存技術協会 田村 匠様の概要説明

見学会

法華経寺 祖師堂の修理工事現場を見学する参加者



■ 準会員

No.	氏名	職 種
1	青木 照幸	檜皮葺
2	青山 亨	檜皮葺・柿葺
3	朝野 達也	檜皮葺・柿葺
4	芦田 健太	檜皮葺・柿葺
5	蘆田 祐明	檜皮葺・柿葺
6	足立 健一	檜皮葺・柿葺
7	足立 大茂	檜皮葺・柿葺
8	安部 悟司	柿 葺 屋根板製作
9	飯野 映稚	檜皮葺・柿葺
10	池田 陽輔	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
11	石井 潤	檜皮葺・柿葺
12	石川 良三	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
13	石塚 健一	竹釘製作
14	市原 健	檜皮葺・柿葺
15	一色 律男	檜皮葺・柿葺
16	伊藤 貴弘	檜皮葺・柿葺
17	伊藤 延行	檜皮葺・柿葺
18	伊藤 元輝	檜皮採取
19	井上 裕貴	檜皮採取
20	居原田 浩樹	檜皮葺・柿葺
21	入江 匠	檜皮葺・柿葺
22	岩崎 正	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
23	大石 薫利	檜皮葺・柿葺
24	大西 康純	茅 葺
25	大野 隼矢	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
26	緒方 伸也	檜皮葺
27	岡野 史和	檜皮葺・柿葺
28	岡本 葉澄	檜皮葺・柿葺
29	奥田 治郎	檜皮葺・柿葺
30	奥田 正博	檜皮葺・柿葺
31	尾崎 良助	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
32	加々美 栄	茅 葺
33	方山 和也	檜皮葺・柿葺
34	勝部 哲也	檜皮葺・柿葺
35	金沢 翔太	茅 葺
36	包國 眞匠	檜皮葺・柿葺
37	金子 英生	檜皮葺・柿葺
38	嘉本 洋士	檜皮葺・柿葺
39	川瀬 皆人	檜皮葺・柿葺
40	河野 修二郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
41	菊池 保	茅 葺
42	岸田 智太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
43	岸田 直彦	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
44	吉川 圭一	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
45	吉川 晋二	柿 葺 屋根板製作
46	木戸 智裕	屋根板製作
47	木下 和也	檜皮葺・柿葺
48	木下 真介	檜皮葺・柿葺
49	木村 健太	檜皮葺・柿葺
50	清田 幸臣	檜皮葺・柿葺

No.	氏名	職 種
51	栗山 弘忠	屋根板製作
52	栗山 光博	屋根板製作
53	栗山 雄二	屋根板製作
54	栗山 芳博	屋根板製作
55	小池 一平	檜皮葺・柿葺
56	後藤 哲夫	檜皮採取
57	小西 康介	檜皮葺・柿葺
58	小西 繁信	檜皮葺・柿葺
59	小林 洋介	茅 葺
60	小原 一樹	檜皮葺・柿葺
61	近藤 竜太	檜皮採取
62	寒河江 清人	檜皮葺・柿葺
63	佐々木 綾子	檜皮葺
64	佐々木 孝則	茅 葺
65	佐藤 偉仁	茅 葺
66	猿橋 成博	茅 葺
67	澤田 昌己	檜皮葺・柿葺
68	品川 琉心	檜皮葺・柿葺
69	末岡 治人	檜皮葺・柿葺
70	須賀 均	檜皮葺 檜皮採取
71	須賀 将志	檜皮葺・柿葺
72	杉谷 功	檜皮葺・柿葺
73	高木 諒	屋根板製作
74	高平 勝也	檜皮葺・柿葺
75	竹森 暢哉	檜皮葺・柿葺
76	武山 貞秋	茅 葺
77	立木 覚士	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
78	田中 智紗衣	管 理
79	田中 智也	管 理
80	寺田 美乃里	檜皮葺・柿葺
81	戸梶 憲幸	檜皮葺・柿葺
82	富田 啓介	茅 葺
83	友井 康介	檜皮葺・柿葺
84	中島 信	茅 葺
85	永瀬 慶祐	檜皮葺・柿葺
86	中西 純一	茅 葺
87	中西 祥也	檜皮葺・柿葺
88	永原 光敬	檜皮葺・柿葺
89	中村 裕司	檜皮葺・柿葺
90	新津 侑樹	茅 葺
91	西 裕之	檜皮葺・柿葺
92	西堀 大樹	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
93	西村 聡央	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
94	西村 信生	檜皮葺・柿葺
95	沼澤 修一	檜皮葺・柿葺
96	野谷 嘉邦	檜皮葺・柿葺
97	BAATARSUREN BAT ERDENE	茅 葺
98	橋本 浩太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
99	橋本 理穂	檜皮葺
100	東 友一	檜皮葺・柿葺

[五十音順]

No.	氏 名	職 種
101	樋口 隆	茅 葺
102	檜 篤 広	檜皮葺・柿葺
103	平田 将大	檜皮葺・柿葺
104	平野 健太郎	檜皮葺・柿葺
105	平野 裕也	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
106	廣内 翔	檜皮葺・柿葺
107	深本 英昭	檜皮葺・柿葺
108	福岡 亮太	檜皮採取
109	福光 太郎	屋根板製作
110	藤中 竜也	檜皮葺・柿葺
111	藤原 諒	檜皮葺・柿葺
112	測上 大輔	檜皮葺・柿葺
113	古川 友喜	檜皮葺・柿葺
114	細見 和希	檜皮葺・柿葺
115	細見 知憲	檜皮葺・柿葺
116	細見 裕	檜皮葺・柿葺
117	堀内 博樹	檜皮葺・柿葺
118	本多 亮貴	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
119	每熊 徳満	檜皮葺
120	横原 孝宜	檜皮葺・柿葺
121	松田 哲也	檜皮葺・柿葺 茅葺
122	松村 省弥	檜皮葺・柿葺
123	松村 純孝	檜皮葺・柿葺
124	松村 有記	檜皮葺・柿葺
125	三上 昭信	茅 葺
126	道繁 康	檜皮葺・柿葺
127	三ツ出 俊平	檜皮葺・柿葺
128	緑川 幹雄	檜皮葺・柿葺
129	峰地 幹太	檜皮葺・柿葺
130	宮川 義史	檜皮葺・柿葺
131	宮西 寛	檜皮葺
132	向田 学	檜皮葺・柿葺
133	村岡 伸康	檜皮葺 檜皮採取
134	村上 章浩	檜皮葺・柿葺
135	村上 貢章	檜皮葺・柿葺
136	森 壯馬	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
137	森山 淳希	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
138	矢野 友則	檜皮葺・柿葺
139	山口 成貴	檜皮葺・柿葺 茅葺
140	山口 宗平	檜皮葺・柿葺
141	山崎 豎登	檜皮葺・柿葺
142	湯野 尚一郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
143	吉竹 秀紀	檜皮採取
144	余宮 祥平	茅 葺
145	和田 琢男	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
146	渡部 雄太	檜皮葺・柿葺

(2022.4.1現在)

京都市東山区清水二丁目 205-5
文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

手
練

第 18 号

令和 4 年度 掲載

あ と が き


2022年はウクライナ問題やコロナ、歴史的な円安が到来し、物価が大きく上昇するなど、多くの人々にとって厳しい1年になりました。コロナによって従来の価値観が変わり、物価上昇によって消費に制約がかかり、これからの時代は本当に必要なものを買う、本当に付き合いたい人と交流することが大事になってくるかもしれません。我々も次の世代に技術を伝えていくために、本当に必要とされる技術を身につけていかねばならないと思います。

今冬もインフルエンザと新型コロナの同時流行が懸念されております。引き続き感染症対策を行い、保存会事業を進めていきたいと思ひます。来年度もご理解、ご協力をお願い申し上げます。

手練

S H U R E N

第 18 号

 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会